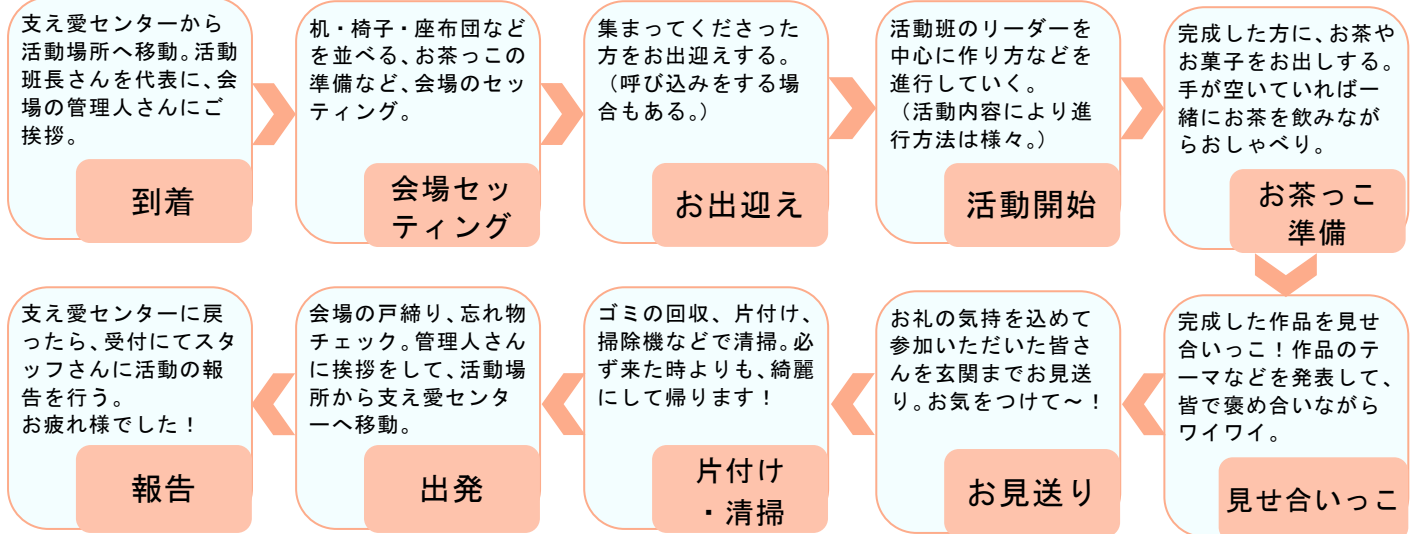


サロン活動の流れ（一例）

現地で行ったサロン活動の《活動場所への到着から活動報告まで》の大まかな流れをご紹介します。活動内容によって進行方法は様々ですが、こちらは「物づくり」をした場合の一例です。1ヶ所、約1時間半の活動ですが、時間いっぱい楽しんでいただける空間づくりを目指して試行錯誤しています。



【お茶(ぢゃ)っこ】とは？
東北の方言で
お茶のことです★



参加者の声

参加された皆さん、リピーターや初参加、活動内容も異なるそれぞれの視点から「参加した感想」をお寄せいただきました。

「みえボラが募集しているから行く？」夫からの一言をキッカケに、まるで誰かに時を示し合わされたかの様に家族3人での参加が決まりました。参加前は多少の不安がありましたが、現地では予想に反して会話が弾み、楽しい時間を過ごしました。短い活動から被災された方の心奥の深い悲しみはわかりませんが、同じ時空を共にした思い出を心の中に一つずつ増やして前向きに生きる僅かなキッカケになればと心から願います。親子3人の初ボランティア！意味のある貴重な経験になりいつまでも大切にしたいと思います。



第20便
中村 壽志さん
恵子さん
大助さん

ポスティングで仮設住宅を回っていると、住民の方から「三重県さんでねんす。今度は何やってけんの？」と声をかけて頂いたり、以前に参加して頂いた活動の話で盛り上がりたり、『みえボラ』の活動を楽しみにして頂いていることが感じられます。ひとり一人の活動は1日半と短く、参加された方の中には物足りなさを感じる方もいると思いますが、自分の想いをオレンジ色のビブスに込めて、次便・次々便へと想いと活動を繋げていくことが、大事なことだと感じました。



第5・6・9・
12・16・18便
伊藤 正幸さん

私は1年半前から東北に行きたいと思っていました。そして2012年10月、やっと山田町へボランティアに行きました。たくさん親切な人に会い、笑ったり、話をして時間を過ごしました。色々な人にわざわざ来てくれてありがとうと言われましたが、皆さんの笑顔が見えただけで十分でした。私が受け取ったもっとも素晴らしいギフトは、『思いやり』です。人と人との関わり合いや思いやりが私を日本に7年間留めています。人と人との関わり合いが、近い未来東北を癒してくれると信じています。山田町ありがとう！



第18便
デイビッド・
コークルさん

5月に「桑名の千羽鶴を広める会」の一員として参加しました。その後もお近くの方に教えてあげたいと続けて折っていただいていることなどから、微力ではありながらも何かを手渡せたことが嬉しかったです。そして、11月には個人ボランティアとしての再びの訪問。ちょうど町の文化祭が行われている日でした。わずか半年の間にお店も増え、がれきとなった被災財の山も小さくなり確実に復興されていく姿に勇気をいただきました。



第3・20便
志治 優美さん

現地では、仮設住宅でのハンドマッサージと畑の再建のお手伝いをしました。この活動を通して、現地の方々が復興に向けて少しでも前向きになれるように今後も息長い継続的な支援をしていかなければいけないと感じました。私自身もこの震災での教訓を活かして、進学予定の大学院では地域防災とその後の復興支援をどうすべきかについて、勉強、研究していきたいという気持ちになり、このボランティアでそれが明確になって本当によかったです！



第2便
片山 誠一さん